

平成 26 年度「福島子どもカプロジェクト ふみだす探検隊 in 妙高 I」事業報告

国立妙高青少年自然の家

1. 趣 旨
  - ・被災に合い、十分な外活動ができていない福島の子どもたちに自然体験の楽しさを味わわせる。
  - ・自然体験を通して、異年齢集団での仲間作りを行い、高学年のリーダーシップや、中学年のフォロワーシップを育成する。
2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家
3. 協 賛 東日本大震災復興支援財団
4. 後 援 文部科学省 福島県教育委員会
5. 協 力 斑尾高原観光協会
6. 期 日 平成26年9月13日（土）～ 9月15日（月）2泊3日
7. 会 場 国立妙高青少年自然の家
8. 対 象 小学生4年生～6年生
9. 参加人員 71名（男子33名、女子38名）
 

活動班を男女混合で10班に編制した。特にリーダー等を決めずに、6年生を中心とした自主的な活動を通して、グループの育成を図った。また、班に1名～2名の担当スタッフを配置し、生活指導や活動のアドバイス等を行った。

10. 日程および内容

	午前	午後	夜
9月13日 (土)	福島から新潟へ移動 <b>1号車</b> 7:30 福島駅西口受付 8:00 福島駅西口発 <b>2号車</b> 7:30 郡山駅東口受付 8:00 郡山駅東口発	14:15 自然の家到着 開会式 仲間作りゲーム 15:00 野外炊事 活動班でカレーを作る	19:30 館内オリエンテーリング 20:30 ふり返り 21:30 入浴・就寝
9月14日 (日)	7:00 朝のつどい 7:15 朝食 8:00 自然の家出発 <b>1号車</b> 9:30 ジップラインアドベンチャー 11:30 昼食 お土産購入 <b>2号車</b> 9:30 千曲川ラフティング 11:00 入浴・着替え	<b>1号車</b> 13:30 千曲川ラフティング 14:00 入浴・着替え <b>2号車</b> 12:30 昼食 お土産購入 13:30 ジップラインアドベンチャー 16:30 自然の家到着	17:30 夕食・入浴 19:00 新聞作成 20:00 ふりかえり 21:00 就寝
9月15日 (月)	7:00 朝のつどい 7:15 朝食 9:00 新聞作成続き 10:00 発表会 11:30 昼食	12:15 閉会式 12:30 自然の家出発 <b>1号車</b> 福島駅西口着 18:15 <b>2号車</b> 郡山駅東口着 18:00	

11. ボランティアスタッフ  
 新潟青陵大学より 5名  
 上越教育大学より 2名  
 信州大学より 3名  
 日本女子大学より 3名  
 社会人 1名 計 14名

12. 活動の実際

1日目

〈アイスブレイク〉



〈野外炊事〉



〈館内オリエンテーリング〉



ほとんどの参加者が、初めて出会うということもあり、初めは緊張した様子が見られていたが、アイスブレイクや野外炊事を通して、緊張もほぐれ、笑顔で活動が行えるようになった。特に6年生は、リーダーとしての責任感から、積極的に班のメンバーに話しかけていた。また班のみんなと話し合ってきた「キャンプのめあて」を意識して、グループに指示をする姿が見られていた。夜に行った、館内オリエンテーリングの時には、班の雰囲気もすっかりよくなり、ボランティアスタッフとの関係もできて、まとまって活動することができた。

2日目

〈ジップライン〉



〈ラフティング〉



〈新聞作成〉



〈信越五岳ボランティア〉



1日目と比べ、班の雰囲気は格段に良くなり、どの班も楽しそうに活動していた。1号車は信越五岳トレイルランニングレースにキッズボランティアとして特別参加し、選手に声援を送った。選手から「ありがとう。」「元気がでるよ。」と声をかけられ、うれしそうだった。

午前と午後でジップラインアドベンチャーとラフティングを交代で行った。ジップラインアドベンチャーは最初、怖がっていた子も多かったが、なれてくるにつれ、手を離したり、回転したりとダイナミックに楽しむことができた。また班のメンバーに声をかけたり、ハーネスの装着を手伝ったりと、仲のよい場面が多く見られた。ラフティングでは男女関係なく楽しむことができた。手をつないで飛び込んだり、後ろからひっくり返ったりと、笑顔で活動する場面がとて多く、班の絆もぐっと深まる活動となった。活動後は露天風呂に入り、冷えた身体を温めた。

夜は新聞作成を行った。活動の疲れも見えていたが、話し合いが始まるとみんな積極的に意見を出し、それを6年生が上手にまとめていた。昨日初めてあったばかりとは思えないほどの話し合いができていた。

3日目

〈発表会〉



〈記念撮影〉



部屋点検の終了した班から、新聞作成の続きを行い、自主的に発表の練習を行った。ボランティアスタッフにアドバイスを受けながらも、発表の仕方等を自分たちで考え、練習していた。午前10時より発表会を行った。全員が発表するという事で多少時間が伸びたが、全員が堂々と自分の言葉で発表することができた。特に6年生の発表は、リーダーとして自覚をもって活動したことが伺え、大変素晴らしい発表が多かった。記念撮影をし、妙高を去る際は、仲良くなったボランティアとの別れを惜しむ参加者がほとんどであった。

### 13. 成果と課題

体験活動と言語活動による新聞作り、「キャンプをふり返って」というまとめ（資料参照）を行う事で、参加者が学んだことを以下のように成果として明らかにすることができた。

- ・ 参加者が自分で友達を作る大切さや素晴らしさを感じていた。
- ・ 仲間と協力することの大切さを実感することができた。
- ・ あいさつなどの規範意識が向上した。
- ・ 6年生のリーダー性が十分に発揮されていて、班のまとまりが向上した。
- ・ 自分がやらなければという意識が育ち、素早く行動する姿が見られた。
- ・ 普段なかなかできない体験が、素晴らしい思い出となるとともに、チーム全体を成長させていた。
- ・ 3日間という短い時間でも、仲間意識が十分に育っていた。

また、課題としては以下の点が明らかになった。

- ・ 短い時間で、内容のある活動だったため、時間に追われる場面があった。
- ・ 特に14日の朝は、ゆっくりご飯が食べられずにかわいそうだった。
- ・ しおりや時計をみて、自分たちで動く場面がもっとあるとよかった。
- ・ 活動班と生活班の切り替えのタイミングが難しかった。